

# IV. 資料編

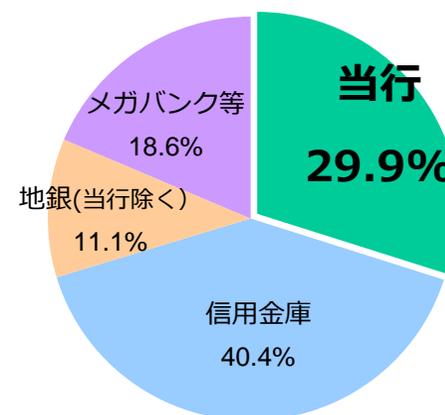
## 京都銀行の概要

(2022年9月末現在)

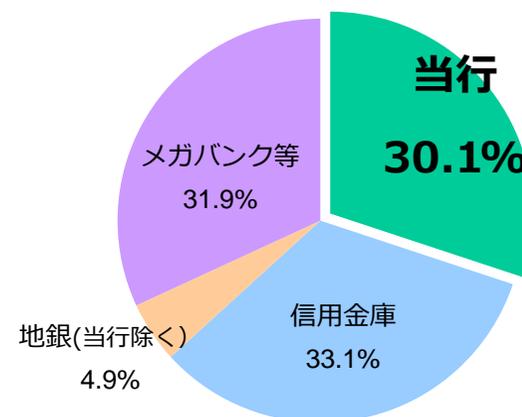
項目	計数等
創立	1941年10月
総資産	10兆6,236億円
預金+NCD	8兆8,386億円
貸出金	6兆2,223億円
資本金	421億円
有価証券評価損益	7,566億円
自己資本比率(単体・国内基準)	11.96%
格付	R & I : A S & P : A-
従業員数	3,482人
拠点数	197か所 (本支店174、専門拠点23)
海外拠点(駐在員事務所)	香港、上海、大連、バンコク

 京都府内シェア(2022/9)  
 (銀行、信用金庫、信用組合に占めるシェア)

## 貸出金

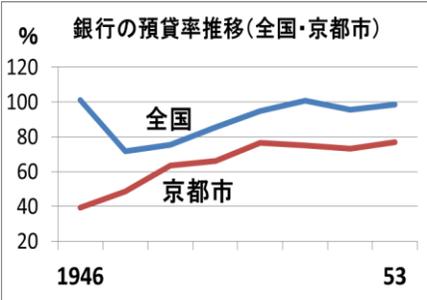


## 預金+譲渡性預金



# 資料編 2. 沿革 (概略：創立～平成期)

京都市内では中小企業の  
資金難が課題



店舗網  
拡充

	京都	大阪	滋賀	奈良	兵庫	愛知	東京	計
2000.3	105	9	0	0	0	0	1	115
2020.3	111	31	14	7	8	2	1	174

+51%

人的資本  
の拡充

	従業員数
2000.3	2,862
2020.3	3,440

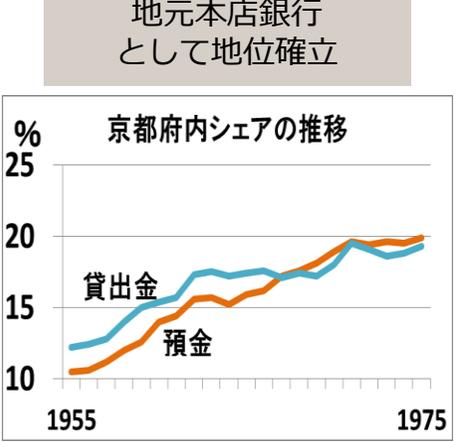
+20%

成長のための  
先行投資

昭和

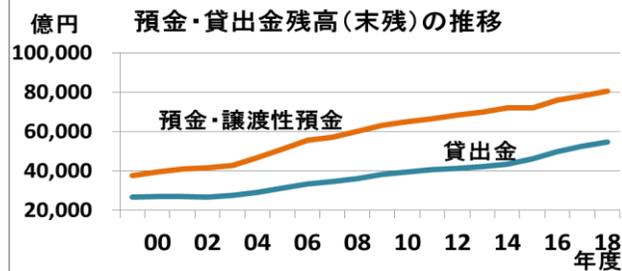
平成

1941年丹和銀行創立  
1945年京都府本金庫事務受託  
1949年京都銀行に改称  
1953年本店を京都市に移転



1957年京都証券取引所に上場  
1963年京都証券取引所に上場  
1964年東京・大阪両証券取引所  
第二部に上場  
1966年第一部に指定替え  
1969年当行初の赤字決算  
1970年滋賀県初進出・草津支店

広域型地方銀行  
として成長加速



2001年京銀証券開業  
2008年信託業務へ銀行本体参入



戦後復興  
ベンチャー企業の台頭とその後の急成長

高度成長・安定成長

バブル  
崩壊

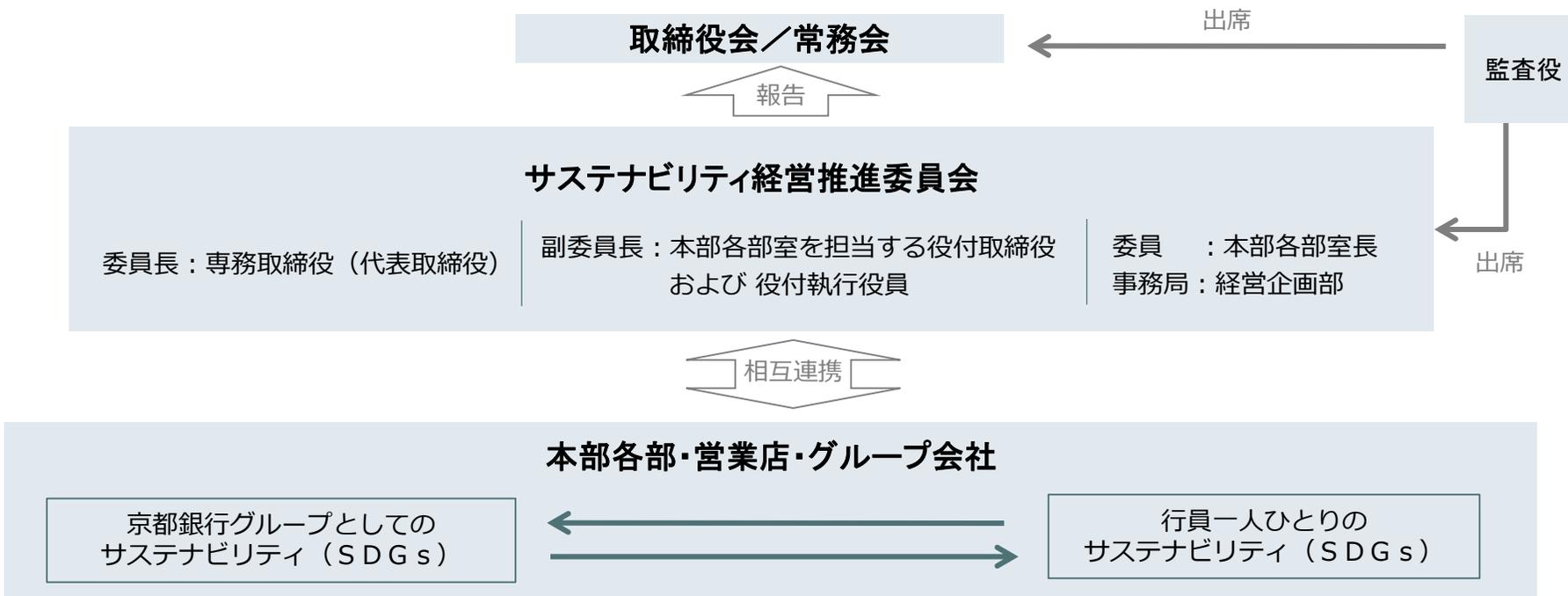
グローバル化  
金融再編

リーマン  
ショック

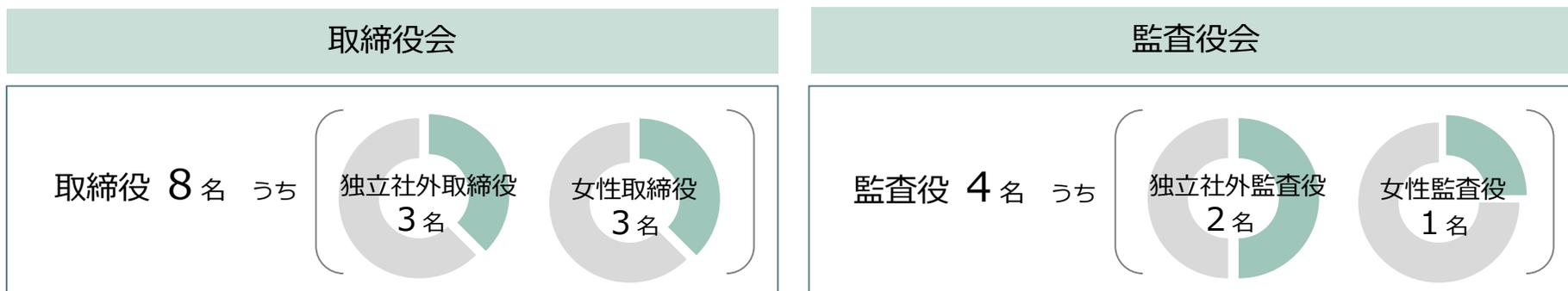
人口減少・低成長

デジタル社会

## サステナビリティ経営推進体制



## ガバナンス体制の強化

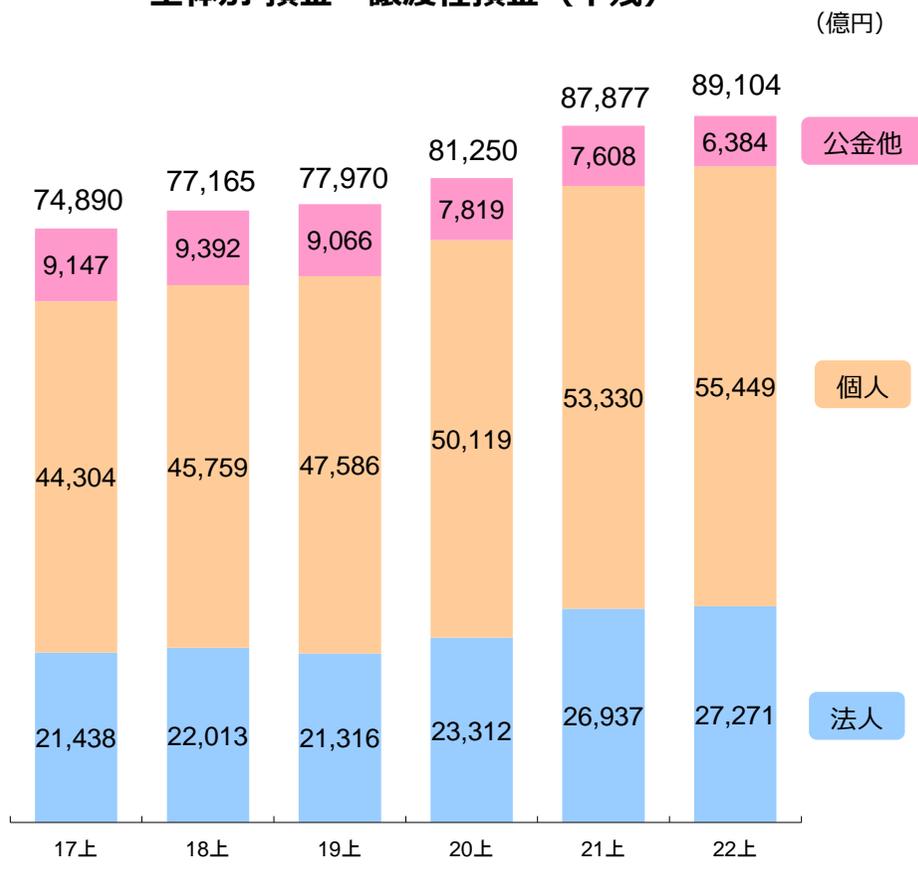


## 預金・譲渡性預金平残の推移

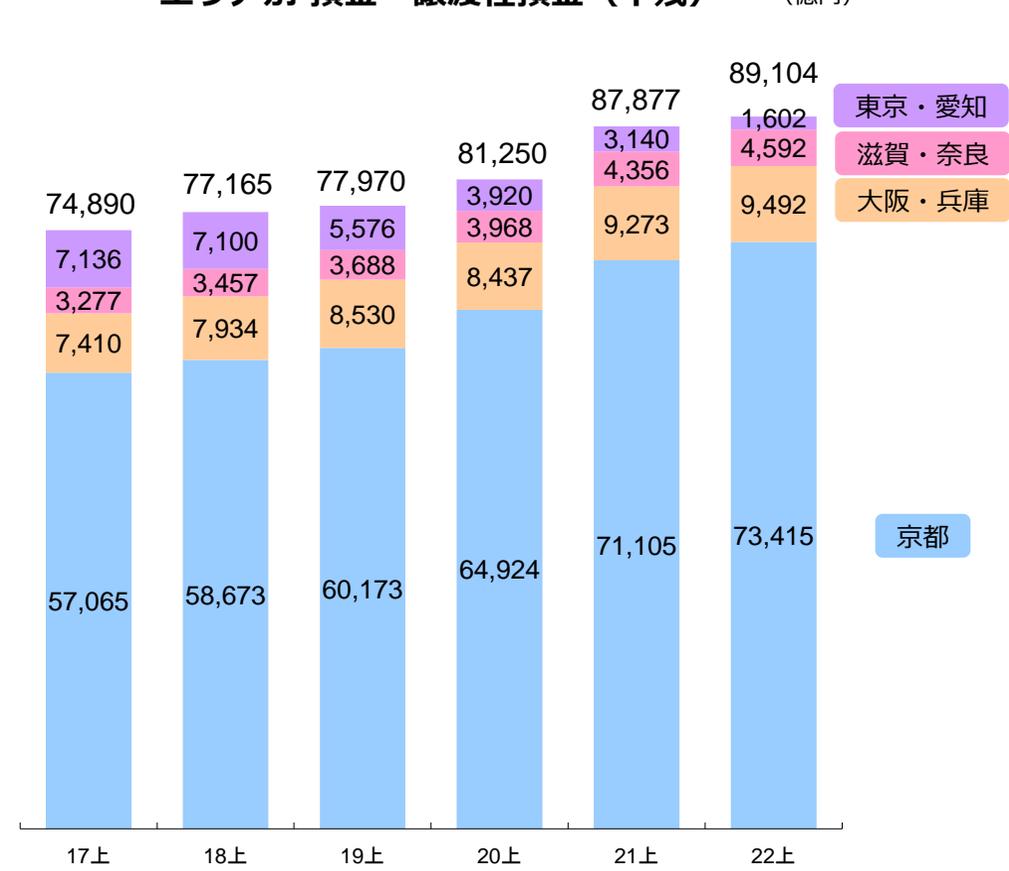
**2022年度上期実績（前年同期比）**  
 法人+333億円、個人+2,118億円、公金他△1,224億円

**2022年度上期実績（前年同期比）**  
 京都+2,309億円、大阪・兵庫+218億円、  
 滋賀・奈良+236億円、東京・愛知△1,538億円

### 主体別 預金・譲渡性預金（平残）



### エリア別 預金・譲渡性預金（平残）



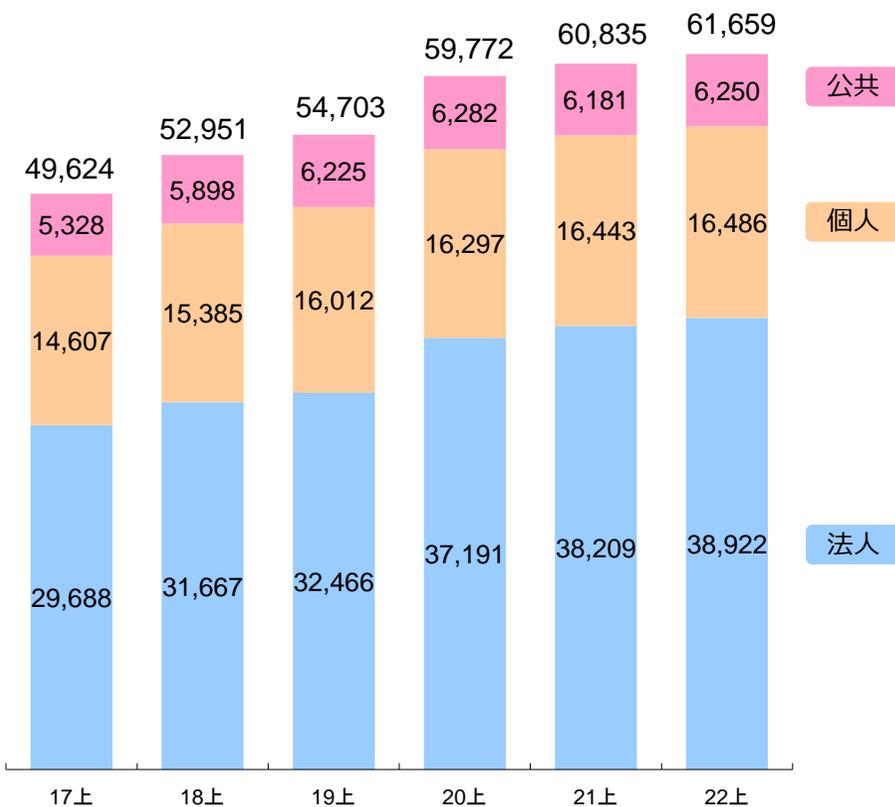
## 貸出金平残の推移

**2022年度上期実績（前年同期比）**  
 法人+712億円、個人+42億円、公共+69億円

**2022年度上期実績（前年同期比）**  
 京都+88億円、大阪・兵庫+601億円、  
 滋賀・奈良+229億円、東京・愛知△95億円

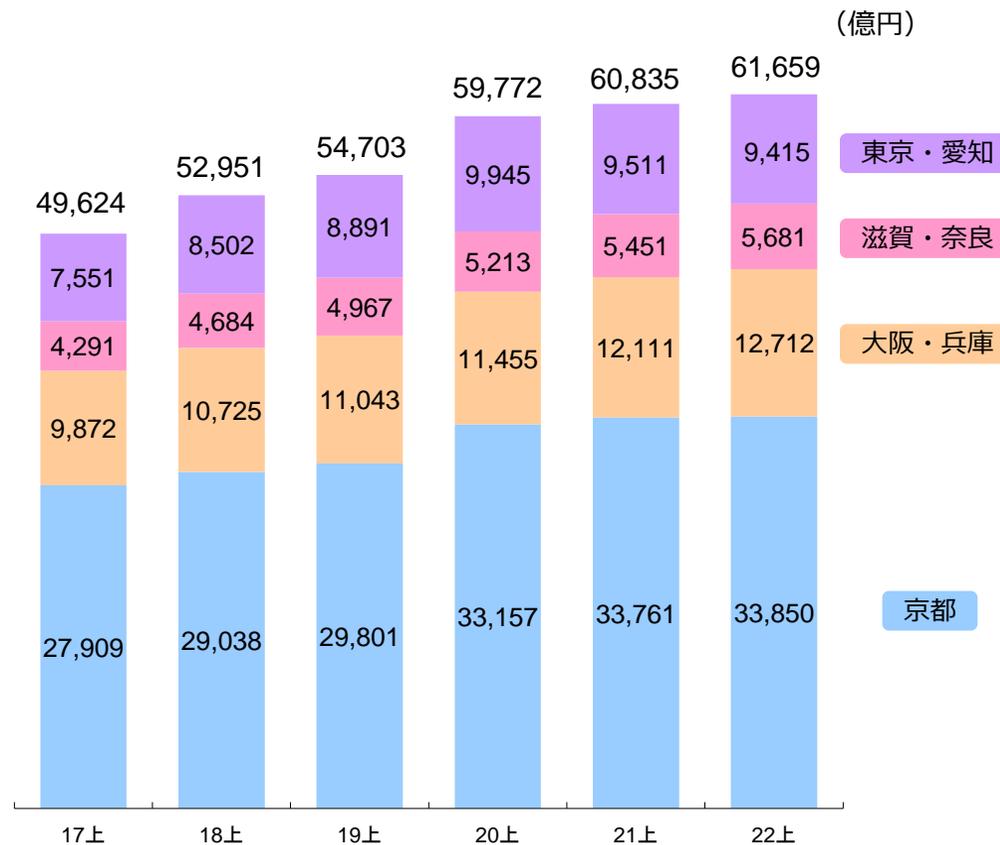
### 主体別 貸出金（平残）

（億円）

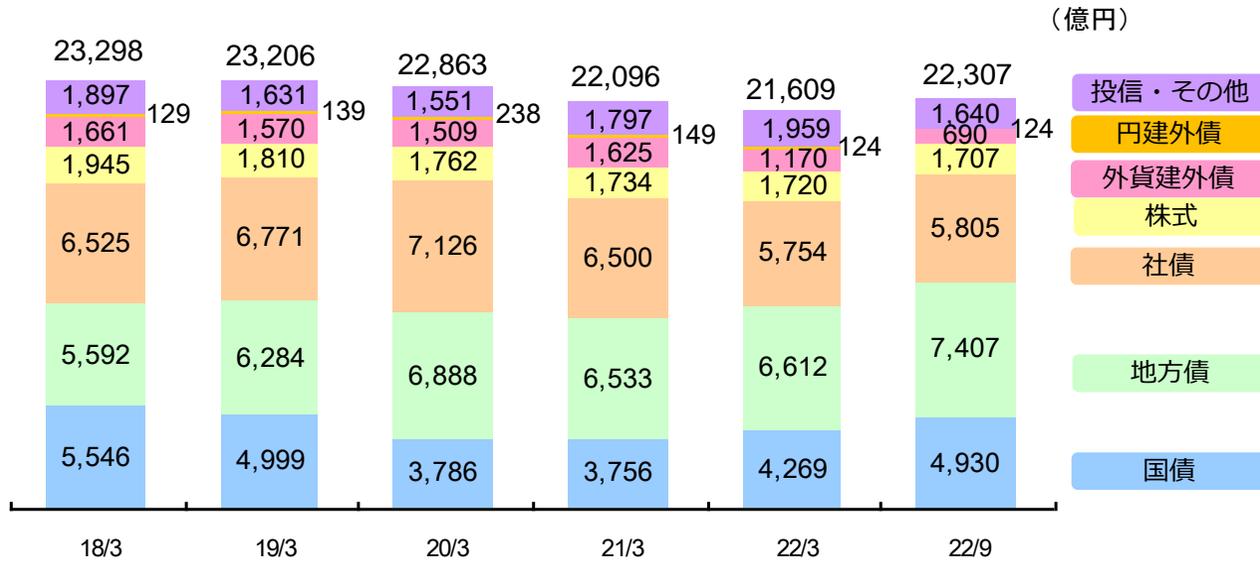


### エリア別 貸出金（平残）

（億円）



## 有価証券残高の推移



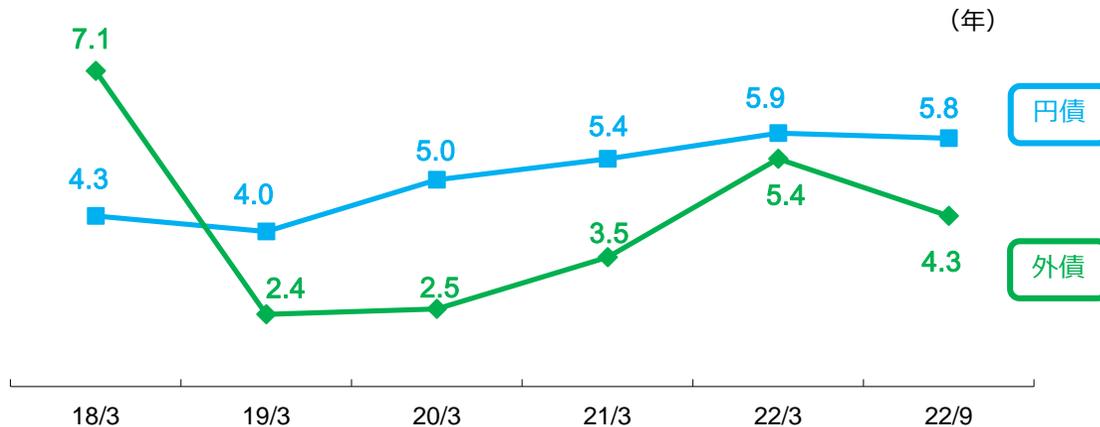
〈注〉時系列比較のため、上記数値は評価損益を除いております。

## 2022年9月末の有価証券評価損益

(億円)

内訳	評価損益
国債	△ 134
地方債	△ 59
社債	△ 39
株式	7,931
外債	△ 56
その他	△ 75
合計	7,566

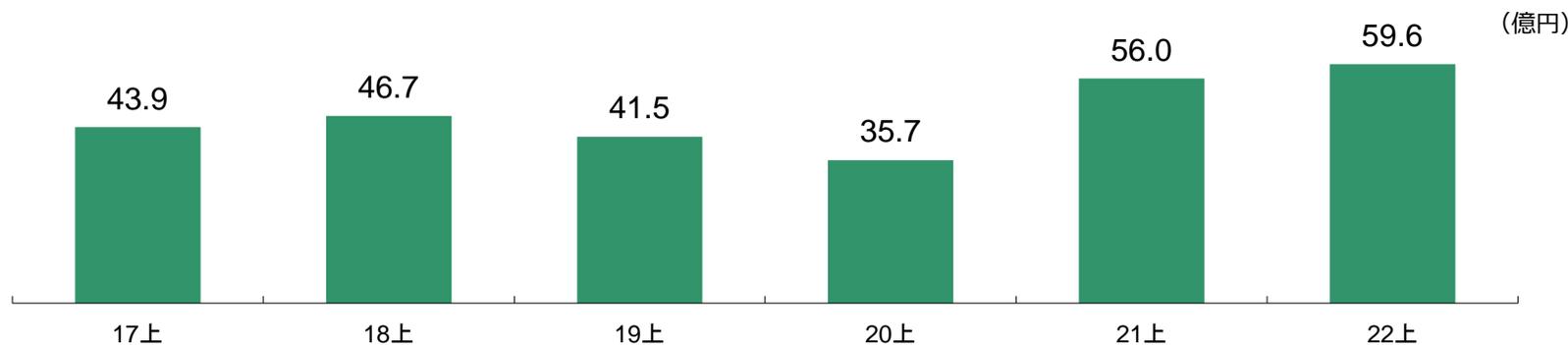
## 債券平均残存期間の推移



### ＜参考＞評価損益変動幅

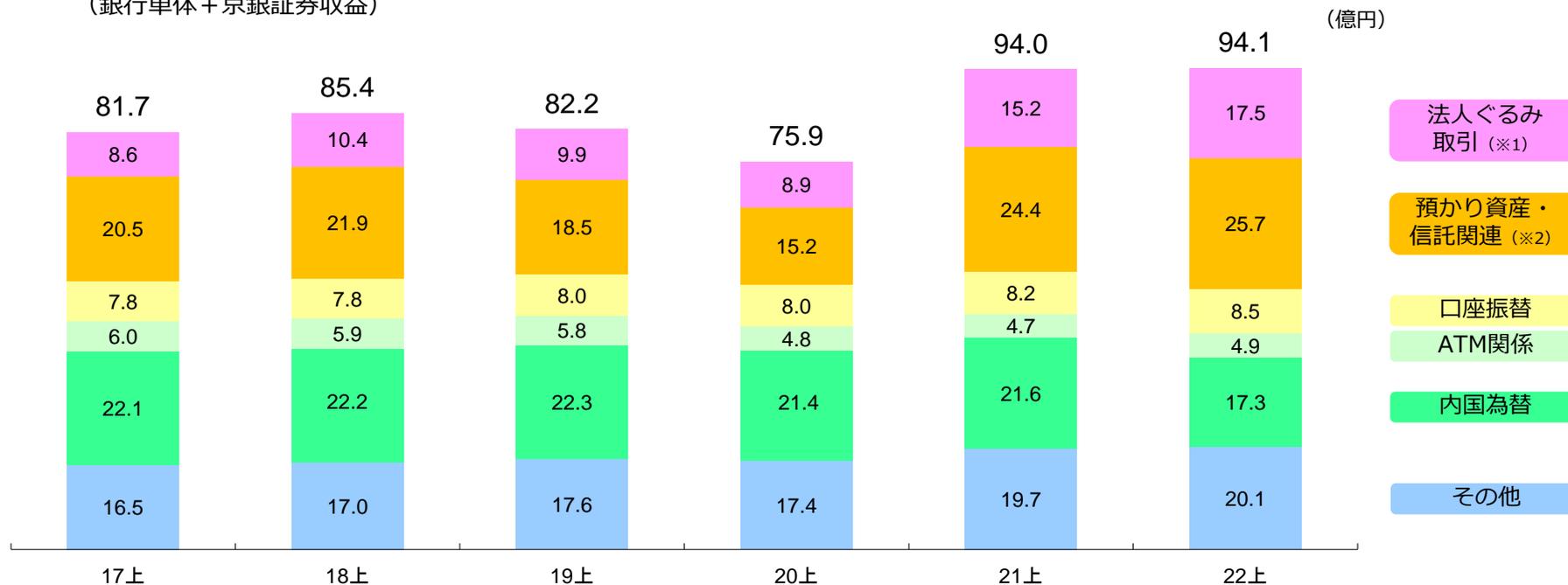
- 円金利が1%上昇した場合の評価損益変動幅  
△ 942億円
- 日経平均が1,000円下落した場合の株式等評価損益変動幅  
△ 357億円

役務取引等利益の推移



役務取引等収益の内訳

(銀行単体 + 京銀証券収益)



(※1) 法人ぐるみ取引：M & A、シローン、ビジネスマッチング、私募債、外為関連等

(※2) 預かり資産・信託関連：投資信託、保険、個人向け国債、金融商品仲介、京銀証券収益、信託関連

## 【統合リスク量の状況】

- 2022年度上期の資本配賦額は2,370億円、2022年9月末の統合リスク量は1,231億円

## 【銀行勘定の金利リスク（IRRBB）】

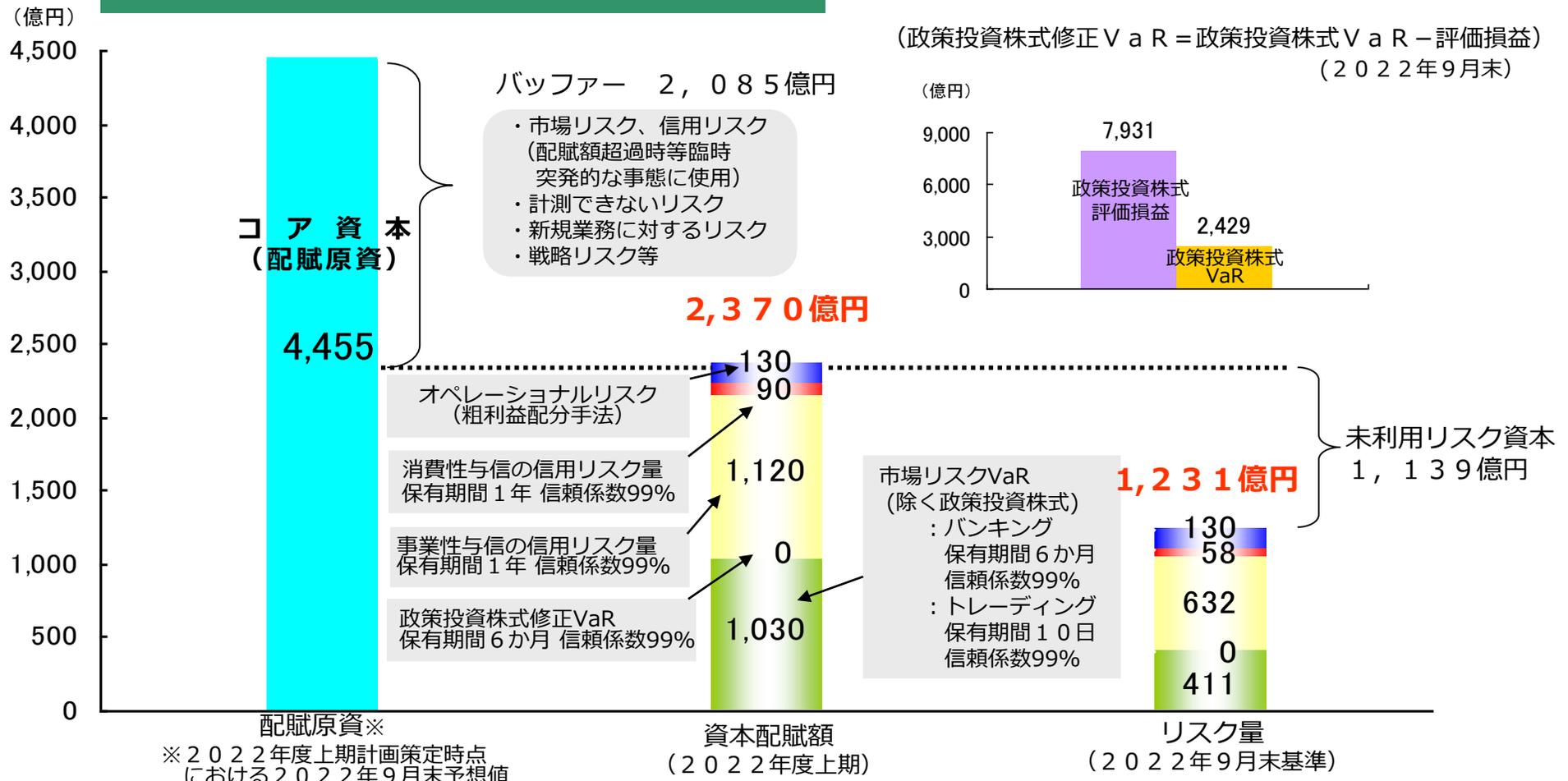
- 2022年9月末のΔEVE（金利ショックに対する経済的価値の減少額）は80億円、自己資本に対する比率は1.8%

## 銀行勘定の金利リスク（2022年9月末）

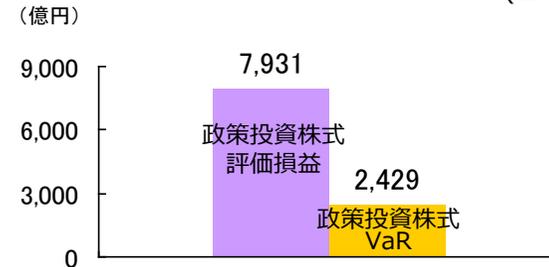
ΔEVE	自己資本	ΔEVE/自己資本
80億円	4,526億円	1.8%

自己資本に対するΔEVEの比率は20%以内となっている

## 統合リスク量の状況（2022年9月末）



(政策投資株式修正VaR = 政策投資株式VaR - 評価損益)  
(2022年9月末)



## 連結子会社・関連会社

<子会社>	業務内容
烏丸商事（株）	不動産管理・賃貸業務、当行役職員への商品等斡旋業務、ECモールの運営
京都信用保証サービス（株）	信用保証業務
京銀リース・キャピタル（株）	リース業務、投資業務
京都クレジットサービス（株）	クレジットカード業務（DC）
京銀カードサービス（株）	クレジットカード業務（JCB、ダイナース）
（株）京都総合経済研究所	経済調査・研究業務、経営相談業務
京銀証券（株）	証券業務
<関連会社>	
スカイオーシャン・アセットマネジメント（株）	投資運用業務

## 連結損益

	（単位：億円）		
	<連結> 22年度中間	<銀行単体> 22年度中間	連結子会社等 の利益反映分
連結粗利益	494	467	26
連結経常利益	222	207	14
親会社株主に帰属する中間純利益	159	150	8

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれております。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、  
リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は、経営環境の変化などにより現時点での予想・計画と  
異なる可能性があることにご留意ください。

### [照会先]

株式会社 京都銀行 経営企画部

電話:075-361-2292

FAX:075-361-4581

<https://www.kyotobank.co.jp/>